

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381226

研究課題名(和文) 視覚教育的&lt;もの&gt;の変容 19世紀後半から20世紀初頭日本・ドイツ比較を中心に-

研究課題名(英文) Changes in Visual Educational Materials: Comparative Study of Japan and Germany from the Late 19th to the Early 20th Century

研究代表者

牧野 由理 (MAKINO, YURI)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：80534396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、19世紀後半から20世紀初頭の子どもが使用していた視覚教育的ものの源泉と変容を明らかにするため、日本・ドイツの諸資料にかかわる実証的な検討を行った。その結果、日本では写実的かつ博物学的な視点で描かれたドイツの視覚教材及び掛図を翻刻し取り入れていたこと、ドイツを重要な窓口として近代は日本においても「もの」の存在様態に科学的(博物学的、技術的)・「芸術」的・「商品」的等の諸方向に画期的な新段階をもたらしたということを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this research, we conducted an empirical study on the visual educational materials used by children in Japan and Germany to clarify their source and transformation from the late 19th to the early 20th century. The results are as follows: 1) German-made educational materials and wall charts developed from a realistic and natural perspective were reprinted in Japan; and 2) Western modernization brought about a revolutionary new stage in the three fields of science (natural and technical), arts, and commerce in Japan in terms of visual educational materials.

研究分野：美術教育史、芸術学

キーワード：美術教育 図画教育史 教具 掛図 明治期 教材

## 1. 研究開始当初の背景

日本の「近代」の形成期である明治期において、欧米文化の摂取による図画教育の開始から日清戦争後の教育政策が形成されるまで図画教育は数々の方針転換や政策変更が行われており、それに関して多数の研究成果が挙げられている。しかしながら、従来の近代図画教育史研究において「幼稚園黎明期における図画教材史」に関する研究は未開拓の分野であり、ドイツをはじめとする欧米からもたらされた教材に関する網羅的な資料の調査、基盤となる研究が十分に行われてきたとは言いがたい。

我が国ではじめての公的幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園は明治9年(1876)に開設された。この時期の幼稚園ではドイツの教育学者でキンダーガルテンの創設者でもあるフリードリッヒ・フレーベル(1782-1852)の影響を受け、恩物中心主義の保育が行われていた。フリードリッヒ・フレーベルは1837年に恩物を製作し、日本では図画は「第十恩物 図画法」として移入された。明治期の図画教育では図版を手本として描き写す「臨画教育」が行われており、当時の幼稚園では欧米から摂取された図版を手本として使用していたと推測される。そこでドイツでの現地調査を行い、19世紀後半から20世紀初頭のドイツの視覚教育的ものとの比較検討を通して図画教材史の変容を探り、図画図版の系譜を明らかにする着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究課題は、日本の「近代」の美術教育史において未開拓分野である「幼児の図画教材史」について、幼児期の子どもが使用していた視覚教育的もの(例えば標本や掛図、教育玩具)の源泉と変容を3つのアプローチによって解明する。(1)日本の幼児図画教材史の変遷(2)ドイツ視覚文化の日本の視覚教育への受容(3)家庭・子どもの遊びで使用していた視覚教育的もの 3つの視点から日本・ドイツの一次資料を調査・分析し、19世紀後半から20世紀初頭の日本・ドイツの視覚教育的もの 比較検討を通して多角的な視点からその変容を浮き彫りにする。

## 3. 研究の方法

本研究は、幼児の「近代図画教材史」に関してドイツからの図画教材の受容と変容を以下の点から探る。

(1)図画教育史の視点から明治期の日本および19世紀後半から20世紀初頭のドイツの視覚教育的もの について図画図版の調査・

撮影・データ化・図版分析を行い、日本・ドイツの視覚教育的もの 比較検討を行う。(2)19世紀後半から20世紀初頭までのドイツ視覚文化の日本の視覚教育への受容にかかわって視覚表象文化論的観点から調査・検討を行い、さらに日独近代文化/教育比較論的に広め深める。

(3)家庭・子どもの遊びで使用していたドイツの視覚教育的もの について実証的調査を通して検討する。

## 4. 研究成果

(1)日本の図画教育史の変遷について、松本幼稚園を対象とした「図画」に関する教具の調査を行い、図画で使用されたと推測される標本(庶物)の実態を明らかにした。またドイツのベルギッシュ・グラートバッハ学校博物館やニュルンベルク玩具博物館等で掛図の調査を行い、明治期に使用された掛図の源泉とドイツからの受容について確認した。ドイツで製作された写実的かつ博物学的な視点で描かれた掛図を使用し、日本で翻刻していたことを明らかにした。

(2)島根県師範学校附属幼稚園の「図画」に関する保育日誌や手本、錦絵等を対象として一次資料の収集・比較検討を行い、保姆による手描きの動物・人物図の実態を明らかにした。またドイツの博物館等で教育掛図の調査を行い、ドイツで製作された掛図の画工に関する資料を収集した。加えて翻刻した日本人画家についての研究をすすめ、ドイツの教育掛図との関連について明らかにした。

以上の研究成果の一部として、平成27年度科学研究費補助金・研究成果公開促進費(学術図書)の助成を受け、風間書房より『明治期の幼稚園における図画教育史研究』を刊行した。

(3)幕末明治期の「視覚の/による」教育を教科書・博覧会・雑誌をもとに調査した。江戸末明治初の博物学関連の書籍をとおして、博物学的な眼の発展過程を追跡した。また明治初めの教科書収集・調査では、美術教科のみならず、むしろ、読本・修身・理科・英語などの芸術以外の諸領域に注目し調査をすすめた。修身・歴史では日本画的表現、英語ではアメリカのリーダーの挿図を基にした挿図、読本では、内容に応じて和・洋使い分けが行われている傾向を明らかにした。

(4)岩手県立図書館・玉川大学教育博物館・シーボルト展・長崎版画展等での調査を通して、近代の科学的視覚形成の教育的機能をおった図・印刷物に関わる調査・資料収集を行った。本研究で蒐集してきた諸資料を通して、ドイツをはじめとする欧米で19世紀の印刷術の発展に立脚した「眼の教育」というべき過程が急速に進行し、それを日本は19世紀

半ば以降の「近代化」過程で急速に摂取し且つ追いついていくが、江戸時代までの「眼の習わし」はそこに複雑に介在し、また持続する力を有していることが得られた。

(5) ドイツでの調査を行い、諸資料の収集に努めた。とりわけ自然史博物館 (Kassel, Muenster)・グリム兄弟資料館 (Kassel) 等での調査・資料収集をおこなった。諸資料収集に直接かかわる考察に努める一方で、何よりも 19 世紀日本・ドイツ / 「もの」と「眼」 / 教育の問題構造を把握することに精力を注いだ。その結果、問題の基本性格および同構造を概略次のように把握するに至った。1) 西洋近代は「もの」の存在様態に、科学的 (博物学的、技術的)、 「芸術」的、 「商品」的という三方向に、画期的な新段階をもたらしたということ、2) そのそれぞれに対応した諸機関 (博物学的コレクション・自然史博物館・博物学的図鑑、「美術」館、博覧会・百貨店等が形成されたということ、3) 西洋近代は上記諸領域・諸機関に対応し、それぞれに鋭敏に感応する「眼」を生み出したということである。

(6) フランクフルトなどの博物館において 19 世紀後半から 20 世紀初頭に製作されたミニチュアやドールハウスの諸資料の収集・撮影・調査を行った。近代西洋の教育施設や各様式の家を模したドールハウスやミニチュアによって、1900 年前後の日本とドイツの子どもをとりまく教育環境、教材、教具、生活様式、遊びなどの比較検討を行い、その導入過程を明らかにした。また西洋ではドールハウスやミニチュアは社会性を学ぶ良いツールであり、「ごっこ遊び」は二重表象とスケールを理解していないと成立できないことが明らかとなった。

以上、4 年間の研究成果報告会として最終年度にシンポジウムを開催し、同記録冊子を製作した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

牧野由理「近代の もの と幼稚園 - 明治教育教具の系譜 - 」、『平成 26 29 年度科学研究費研究成果報告書シンポジウム記録集近代の もの と教育』、埼玉県立大学牧野由理研究室、査読無、2018 年、3 - 15 頁

長田謙一「近代日本の もの と 眼の教育 序説 - 明治初期博覧会と『眼目ノ力ノ眼目ノ教』 - 」、『平成 26 29 年度科学研究費研究成果報告書シンポジウム記録集近代の もの と教育』、埼玉県立大学牧野由理研究室、査読無、2018 年、16 - 25 頁

牧野由理「明治期の島根県師範学校附属幼稚園における図画教育に関する研究」、『美術教育学』、第 38 号、査読有、2017 年、427 - 439 頁

長田謙一「山田一美『日本万国博を契機に開かれた美術教育のコンピテンシー 国際児童画展、ピクトグラム、パフォーマンス等から』」論評、『日本美術教育研究論集』、第 50 号、査読無、2017 年、251 - 251 頁

長田謙一「街から図書館へ / プレイスから街へ にぎやかな知と市民の創造力」、『武蔵野プレイス 5 周年記念シンポジウム プレイスの未来を考える報告書』、査読無、2016 年、35 - 38 頁

長田謙一「美術にとって『戦時期』とはなんであったか」、『REAR』、第 36 号、査読無、2016 年、65 - 69 頁

長田謙一「ナチズム化の日独文化交流」「パウハウス留学」「戦後の文化交流」『ドイツと日本を結ぶもの 日独修好 150 年の歴史』展図録、査読無、2015 年、150 - 152 頁、176 頁

長田謙一「美術科教育学会シンポジウム記録 発言者」、第 36 回美術科教育学会奈良大会 シンポジウム記録『美術科教育におけるコミュニケーション・言葉・言語活動』、査読無、2015 年、42 - 43 頁

長田謙一「アートマネジメント学会シンポジウム記録 文化芸術振興における大学の役割 報告者」、『実践女子学園アート・コミュニケーション研究所 平成 26 年度事業報告書』、査読無、2014 年、13 - 16 頁

〔学会発表〕(計 11 件)

牧野由理「幼児の造形表現 - 歴史的観点から考える - 」、美術科教育学会 乳・幼児造形研究部会、大阪成蹊大学・短期大学、2017 年

牧野由理「近代の もの と幼稚園 - 明治教育教具の系譜 - 」、シンポジウム近代の もの と教育、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、2017 年

長田謙一「近代日本の もの と 眼の教育 序説 - 明治初期博覧会と『眼目ノ力ノ眼目ノ教』 - 」、シンポジウム近代の もの と教育、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、2017 年

牧野由理「明治期の教育掛図にかかわる画工に関する研究」、静岡県コンベンションアーツセンター、第 39 回美術科教育学会、2017 年

長田謙一「藤田嗣治《アツツ島玉砕》(1943)と『玉砕』の誕生」、藝術学関連学会連合 第11回公開シンポジウム ニュースを創り出すアートの力、早稲田大学戸山キャンパス、2016年

長田謙一「21世紀、【アートする力】」、美術科教育学会リサーチフォーラム 転換期日本の美術/教育：「アートする力」とは何か - その未来への可能性を探して、東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター、2016年

牧野由理「明治期におけるドイツの図画教具に関する研究」、第38回美術科教育学会、大阪成蹊大学、2016年

長田謙一「基調講演 基礎とは何か」、アジア基礎造形連合学会 2015 成田大会、メルキールホテル成田、2015年

牧野由理「明治期の松本幼稚園における図画教具に関する研究」、横浜国立大学、第54回大学美術教育学会、2015年

長田謙一「韓国現代アートのリサーチ報告 釜山ビエンナーレと光州ビエンナーレ周辺から」、日韓アートマネジメントシンポジウム、名古屋ガーデンパレス、2015年

牧野由理「明治期の幼稚園における図画教具に関する研究」、第53回大学美術教育学会、福井大学、2014年

〔図書〕(計 2 件)

牧野由理編『平成 26 29 年度科学研究費研究成果報告書シンポジウム記録集 近代のもの と教育』、埼玉県立大学 牧野由理研究室、2018年、全 35 頁

牧野由理『明治期の幼稚園における図画教育史研究』、風間書房、2016年、全 309 頁

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

牧野 由理 (MAKINO, Yuri)  
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授  
研究者番号：80534396

### (2) 研究分担者

長田 謙一 (NAGATA, Kenichi)  
名古屋芸術大学・芸術学部・教授  
研究者番号：20109151

池内 慈朗 (IKEUCHI, Itsuro)  
埼玉大学・教育学部・教授  
研究者番号：10324138  
(平成 29 年 1 月まで)